

発行通知書

Space-E / Modeler

Version 5.3

Space-E / Mold

Version 5.3

ACIS®は、Spatial CorporationによってUS Patent and Trade Mark Office（米国特許庁）に商標登録されています。
DXF/DWGは、米オートデスク社の登録商標です。
Contains Autodesk® RealDWG by Autodesk, Inc.,
Copyright © 1998-2014Autodesk, Inc., All rights reserved.
Windows® 2000、Windows® XP、Windows® Vista、Windows® 7、Windows® 8またその他のマイクロソフト製品の
名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
その他の製品および会社名等は、各社の商標または登録商標です。

■ ご注意

- 本書の内容及びソフトウェアは、予告無しに変更されることがあります。
- 本書の内容は細心の注意をもって作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きの点がございましたら、弊社または販売代理店までご連絡ください。
- 本書に記述するソフトウェアを運用した結果発生する損害につきましては、本書の記述およびソフトウェアの不備にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 本書および本書に記載するソフトウェアは、著作権法上の保護を受けています。
- 株式会社NTTデータエンジニアリングシステムズに対し文書の承認を得ずに、無断で本書およびソフトウェアの一部あるいは全部について、複写および複製することは禁じられています。

Copyright © 1996-2014 NTT DATA ENGINEERING SYSTEMS Corporation All rights reserved.

目 次

1. Space-E/Modeler Ver.5.3で追加された機能	1
1.1. 推奨 OS 環境に Windows8.0 および Windows8.1 を追加	1
1.2. Space-E/Mold の統合	1
1.3. Space-E/Modeler の言語設定による実行環境の統一	2
2. Space-E/Modeler Ver.5.3で改良された機能	3
2.1. 不具合修正内容	3
3. 動作環境	4
4. 注意・制限事項	5
4.1. 消費メモリを節約したときの速度劣化について	5
4.2. 消費メモリを節約したときのタスクマネージャ上の容量.....	5
4.3. プリセレクトハイライトをオーバーレイに表示する	5
4.4. ラバーバンド中のビュー操作	5
4.5. 半透明表示のちらつき	6
4.6. 描画の高速化について	6
4.7. 描画データの一時ファイルへの退避時の速度劣化について.....	6
4.8. 描画の高速化の無効と描画データの一時ファイル退避との関連について.....	7
4.9. 断面表示(SCVW)におけるモデルの表示について	7
4.10. 面上スプライン修正(ESOF)における、分割点数の設定について	7
4.11. ボリュームデフォーメーション(VDM)、レフィット(REFIT)における固定面について.....	8
4.12. レフィット(REFIT)における拘束条件と変形結果の関係について.....	8
4.13. ハッチング(HATC)における対象要素の選択、確定について	8
4.14. 簡易電極作成(POCR)、電極作成(ELEC)におけるデータムの設定について.....	8
4.15. 環境アップデータのバックアップ対象について	8
4.16. DXF ファイル読み込み時の線種について	8

1. Space-E/Modeler Ver.5.3で追加された機能

1.1. 推奨 OS 環境に Windows8.0 および Windows8.1 を追加

Space-E/Modeler の推奨 OS 環境に Windows8.0 および Windows8.1 を追加しました。

1.2. Space-E/Mold の統合

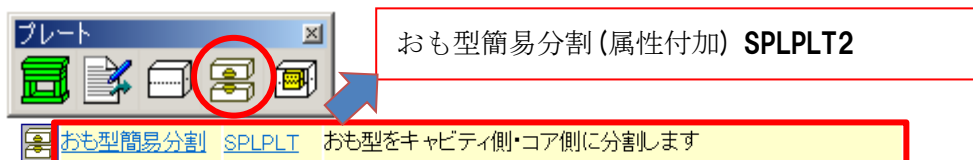
Space-E/Mold の機能を Space-E/Modeler に統合しました。

※Space-E/Mold の機能を使用する場合は、従来通り Space-E/Mold のライセンスが必要です。

Space-E/Mold の機能を Space-E/Modeler に統合に伴い、下記の変更をおこなっています。

(1) コマンド名変更

Space-E/Modeler と Space-E/Mold で同一名のコマンド “SPLPLT”について、Space-E/Mold のコマンドを、“SPLPLT2”に変更しました。



(2) holerc 中の dat ファイル移動

Space-E/Mold の機能統合により、Space-E/Modeler で使用している dat ファイルを移動しました。

C:\¥H¥Z¥S¥Modeler¥config¥ja_JP.mscod¥profile¥デフォルト¥holerc より

C:\¥H¥Z¥S¥Modeler¥config¥ja_JP.mscod¥profile¥デフォルト¥moldrc に移動しました。

(C:は、インストールしているドライブになります。)

(デフォルトは、使用している環境設定になります。)

※dat ファイルは、インストール時の環境のバックアップと環境の挿入によりファイルの移動をおこないます。

(3) 言語設定で中国語繁体語時のエラー表示

Space-E/Mold では、中国語繁体語をサポートしていません。言語設定を中国語繁体語に設定して Space-E/Mold のコマンドを実行した場合、Space-E/Mold ライセンスを保有していても下記のエラーが表示され、実行することができません。



1.3. Space-E/Modeler の言語設定による実行環境の統一

Space-E/Modeler の言語設定により、日本語の実行環境と海外版の実行環境が一部異なっていましたので、統一化をおこないました。

(1)run_field 中の dat ファイルの一部移動

日本語の実行環境が、外国語（英語、中国語簡体、中国語繁体）と異なっていたので外国語と同じ実行環境に変更（ファイルの移動）し統一化をおこないました。

- ・ C:\HZZS\Modeler\run_field にある下記のファイルを

C:\HZZS\Modeler\config\ja_JP.mscode\profile\デフォルト\moldrc に移動しました。

（C:は、インストールしているドライブになります。）

（デフォルトは、使用している環境設定になります。）

※dat ファイルは、インストール時の環境のバックアップと環境の挿入によりファイルの移動をおこないます。

（対象ファイル）

```

mold_attrib_all_name.dat
mold_attrib_all_type.dat
mold_attrib_append_name.dat
mold_attrib_customizer_name.dat
mold_attrib_user_name.dat
mold_standard_material.dat
mold_user_maker.dat
mold_user_material.dat
MoldClassificationName.dat
plbase_grpname.dat
plbase_stdmbase.dat
plbase_stdmbase_accessary.dat
plbase_stdmbase_price.dat

```

2. Space-E/Modeler Ver.5.3で改良された機能

2.1. 不具合修正内容

機能		修正内容
1	IGES 変換	IGES ファイルを MDP 変換したときに、変換できない不具合を修正しました。

3. 動作環境

*Space-E/Modeler Ver.5.3*を実行するために必要なシステム環境です。

OS環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Windows XP+ServicePack3</i>以降(32ビット) ・ <i>Windows 7 Professional+ServicePack1</i>以降(32ビット、64ビット) ・ <i>Windows 8 Professional</i> (64ビット) ・ <i>Windows 8.1 Professional</i> (64ビット)
対応機種	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Windows XP.Pentium4</i> 1.5GHz以上 (推奨 <i>Pentium4</i> 2.0GHz以上) ・ <i>Windows 7</i>以降: <i>Core 2</i>以上
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Windows XP</i>:512MB以上 (推奨 1GB以上) ・ <i>Windows 7</i>以降:1GB以上 (推奨 32ビットは2GB以上、 64ビットは3GB以上)
ディスク容量(スワップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム 2GB以上 ・ ページファイル1GB以上
その他(ハードウェア)	<ul style="list-style-type: none"> ・ OpenGLボード(<i>Space-E</i>に準拠) ・ 3ボタンマウス ・ ネットワークボード
その他(ソフトウェア)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Internet Explorer</i>7.0以上

- ※ *Space-E/Modeler Ver.5.3*は *Windows NT*の環境にて動作しません。
- ※ *Space-E/Modeler Ver.5.3*は *Windows 2000, Windows Vista*での動作保証は行っておりません。
- ※ *Space-E/Draw* :552Mbytesのディスク容量が別途必要になります。
- ※ *Windows XP +ServicePack3*以降のバージョンで動作させるとき、各種のセキュリティ警告が表示されることがありますが、これは、*Windows*の仕様です。

4. 注意・制限事項

4.1. 消費メモリを節約したときの速度劣化について

Modeler Ver5.3では、消費メモリを節約するために、形状データの中で、使用頻度の低いデータを一時ファイルに退避しています。

このため、大量の要素を扱う処理を行った場合に通常より若干時間がかかる場合があります。もし、この機能を使用しない場合には“環境設定(ENV)”のリソースタブにある<形状データを一時ファイルに退避させる>のチェックを外してください。

4.2. 消費メモリを節約したときのタスクマネージャ上の容量

上述した、使用頻度の低いデータを一時ファイルに退避しても、Windows OSのタスクマネージャでは、すぐにアプリケーションが使用するメモリの減少は確認できません。タスクマネージャで確認できない理由は、ランタイムヒープマネージャがメモリの最適化を行っても、OSがすぐにメモリを開放しないからです。メモリを使い果たした時に、最適化によって認識された不要なメモリが開放され、使用できるメモリは増加します。

4.3. プリセレクトハイライトをオーバーレイに表示する

環境設定でこの項目を設定した場合、グラフィックボードの種類やグラフィックドライバのバージョン、またはパソコン本体との相性で正常に機能しないことがあります。正常に機能しない場合には、この設定をOFFにして使用してください。

なお、Space-Eの推奨ボードにて、この機能の正常動作が確認されています。

4.4. ラバーバンド中のビュー操作

モデリングモードにおいて、ラバーバンド表示中にビュー管理パネルからのビュー操作および、「再表示」や「ビュー戻る」などの操作を行うと、グラフィックボードによっては表示が正しく行われなかったり、残像が残ったりする場合があります。

4.5. 半透明表示のちらつき

クラス色およびグループ色で半透明の設定を行うと、環境により画面のちらつきが発生する場合があります。このちらつきは透明度を変更することにより軽減できます。透明度は¥HYS¥Modeler¥config¥ja_JP.mscode¥profile¥[使用プロファイル]¥user_modeler.iniの**COLOR_ALPHA_LEVEL**の値を修正することで変更が行えます。設定できる値は、0～255で、数値が大きくなるにつれ透明になります(0:不透明、255:透明、155:デフォルト値)。

```
rem #-----  
rem # Transparent level  
rem #-----  
set COLOR_ALPHA_LEVEL=155
```

4.6. 描画の高速化について

3D描画の高速化機能を使用するには、PCに装着されているグラフィックボードがOpenGL2.0に対応している必要があります。また、グラフィックアクセラレータを使用していない場合も、この機能を使用することはできません。

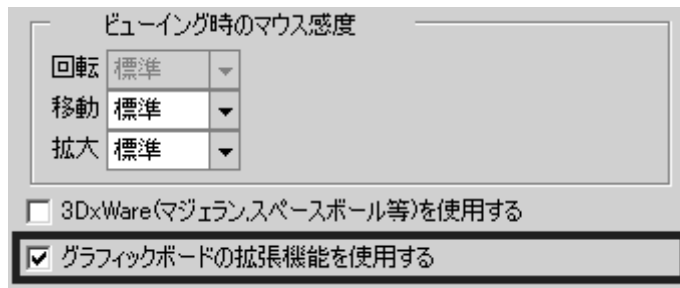
4.7. 描画データの一時ファイルへの退避時の速度劣化について

描画データを一時ファイルに退避して消費メモリを節約する場合、表示されているアイテム数が多いと、面のハイライト解除、部分色面の描画において通常より若干時間がかかる場合があります。これは、ダメージエリアドローやエリア内アイテムの検索時に、表示されているすべての要素の描画データにアクセスするためです。

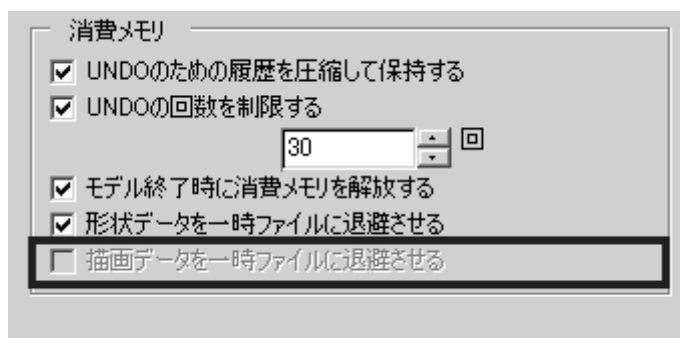
このため、もし、この機能を使用しない場合には“環境設定(ENV)”のリソースタブにある<描画データを一時ファイルに退避させる>のチェックを外してください。

4.8. 描画の高速化の無効と描画データの一時ファイル退避との関連について

描画の高速化機能は“環境設定(ENV)”のダイナミックビュータブにある<グラフィックボードの拡張機能を使用する>のチェックを外すことで無効にすることができます。



また、描画の高速化機能が無効にすると、“環境設定(ENV)”のリソースタブにある<描画データを一時ファイルに退避させる>のオプションは自動的にオフになります。このときオプションのチェックボックスは下図のようになり、オンに切り替えることはできません。



4.9. 断面表示(SCVW)におけるモデルの表示について

グラフィックボードの種類やグラフィックドライバのバージョン、またはパソコン本体との相性によって、“断面表示(SCVW)”でモデル中のプリセレクトでハイライトされた領域が画面から消える、断面を移動させた時にモデルの稜線が残るといった現象が発生する場合があります。

4.10. 面上スプライン修正(ESOF)における、分割点数の設定について

修正する面上スプラインの選択時に、構成点の間隔が極端に狭くなるような分割点数を設定すると、Modelerが異常終了する場合があります。

4.11. ポリウムデフォーメーション(VDM)、レフィット(REFIT)における固定面について

モデルに対して、矛盾のある拘束条件を設定した場合に、矛盾によるうねりの発生が少なくなるように変形を行います。

その結果、固定面が完全に固定されずに膨らみなどが若干生じる場合があります。

4.12. レフィット(REFIT)における拘束条件と変形結果の関係について

レフィット(REFIT)では、表面の品質を滑らかに保つように変形を行います。

その結果、設定した拘束条件と変形結果が完全に一致しない場合もあります。

4.13. ハッチング(HATC)における対象要素の選択、確定について

“環境設定(ENV)”の<選択>-<プリセレクトを有効にする>のチェックが入っていて、アイテムがハイライトされている状態で、入力エリアに文字を入力してENTERキーを押すと、そのままハイライトされているアイテムを対象としてハッチングが作成される場合があります。

4.14. 簡易電極作成(POCR)、電極作成(ELEC)におけるデータムの設定について

カレントデータムと初期設定されているデータム「X-Y」が等しくない場合は、正しく電極が作成されない場合があります。

4.15. 環境アップデータのバックアップ対象について

Space-E/IGESの設定は、環境アップデータ機能のバックアップ対象ではありません。

4.16. DXFファイル読み込み時の線種について

DXF 2000形式以前のDXFファイルをSpace-Eへ読み込むと、名前に2バイト文字が含まれる線種の要素は必ず実線に変換されます。

発行通知書

Space-E/Modeler Version 5.3

Space-E/Mold Version 5.3

初版発行 2014年05月12日

発行 株式会社NTTデータエンジニアリングシステムズ
〒144-8601 東京都大田区西蒲田7-37-10
